

塩谷町公共下水道中止について

塩谷町は矢板市との合併協議が平成16年12月に破綻して以来、自律して独自の町政運営を行うために、『塩谷町自律計画（平成17年3月策定）』を策定し、平成17年度～平成22年度の5カ年で30億円の歳出削減を計画しました。

このような、背景から公共下水道事業についても平成16年度から事業の凍結を行い、平成22年度の栃木県公共事業評価委員会の意見では「事業の中止が妥当」ということになりました。

【事業の中止：全体計画面積105ha，計画処理人口3,200人，全体事業費22億円】

平成21年度策定の塩谷町生活排水処理構想についても、費用比較では集合処理が有利との判定でしたが、人口減少や財政状況を考慮したところ、482haの構想を廃止し全町合併浄化槽による処理方法に変更となりました。

下野新聞記事（平成22年9月8日）

塩谷町公共下水道 中止へ

塩谷町が一部事業に着手したものの、財政難などを理由に休止となっている町公共下水道について、県公共事業評価委員会（委員長・中島章典宇都宮大大学院教授）は7日までに、「事業の中止が妥当」との意見をまとめた。同町はこれを踏まえ、近く事業中止の手続きに入る。

同事業は2003年に都市計画決定。国道461号沿いを中心に3200人分の下水を処理する計画だった。全体事業費は22億円。このうち4千万円を測量などで既に投入した。だが同町は予算規模の縮小や地方債残高の増加、優先度の高いほかの事業への支出など

財政難で 県評価委「妥当」

の理由で、04年度から休止していた。

完成までの事業期間が長期に及ぶこともあり、同町は下水道と同等の浄化能力があり早期に普及可能な合併処理浄化槽の普及促進を検討してきた。町の負担が少なくなる利点もある。

同町建設水道課は「中止の方向で検討していただきたいとして（同委員会に）諮問した。お墨付きを得たので、意見書に沿って事業中止としたい」としている。

県によると、同委員会が公共事業中止の判断を示したのは今回が3回目。過去には03年の県営東大芦川ダム（鹿沼市）、06年の県営大室川生活貯水池（那珂川町）がある。

（宗像信如）

《塩谷町生活排水処理構想(案)の見直し概要》

※未着手公共下水道(塩谷処理区、船生処理区)の合併浄化槽区域への変更

公共下水道で生活排水処理を行う予定であった塩谷地区(玉生・大宮地区)、船生地区において、費用比較では有利との判定でしたが、人口減少や町の財政状況から、合併浄化槽で生活排水処理を行うことが適切であると判断し、整備手法を変更しました。

表 整備手法の変更概要

| 計画目標年 | 前回構想(平成14年度) | | | | → | 今回見直し構想(案) | | | |
|---------|--------------|--------|-------|--------|-------|------------|--------|--------|--|
| | 平成27年 | | | | | 平成37年 | | | |
| 整備手法 | 公共下水道 | 農業集落排水 | 合併浄化槽 | 合計 | 公共下水道 | 農業集落排水 | 合併浄化槽 | 合計 | |
| 事業数(箇所) | 2 | 0 | — | 2 | 0 | 0 | — | 0 | |
| 面積(ha) | 482 | 0 | — | 482 | 0 | 0 | — | 0 | |
| 計画人口(人) | 9,300 | 0 | 4,400 | 13,700 | 0 | 0 | 10,500 | 10,500 | |

自律計画による成果 【町債一般会計残高】

| | |
|---------|-----------|
| 平成16年度末 | 76.8億円 |
| 平成17年度末 | 74.3億円 |
| 平成18年度末 | 72.1億円 |
| 平成19年度末 | 69.2億円 |
| 平成20年度末 | 65.4億円 |
| 平成21年度末 | 62.5億円 |
| 平成22年度末 | 59.6億円見込み |